

## 平成29年度 学校関係者評価 報告書

### 1 関係者評価の目的

#### ① 学校の改善

・評価したことをもとに、改善を加えてより良い学校を目指す。

#### ② 評価を通じた意見の交流

・評価することを通して、学校や児童の実態について意見を交換し、課題の解決に近づける。

#### ③ 保護者・地域との連携

・本校児童を多くの人の目で見守ることができる関係づくりを重視し、学校と保護者・地域が連携することのできる関係の構築を目指す。

### 2 学校関係者評価の回収率

	児童(5・6年)	保護者	地域
配布数	207	751	48
回収数	206	539	34
回収率	99.5%	72%	72%
増減(昨年度比較)	-0.5%	±0	+4

### 3 学校関係者評価の集計結果 ※別紙参照

### 4 本校の課題

今年度の保護者・地域・児童の各評価項目について、「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「分からない」の合計の変動を見ながら考察した。

今年度の回収率は、児童については0.5%減少、保護者については同じ、地域については4%増加した。一方、保護者の7割のご意見で、本校の教育活動についての改善資料としていいのだろうかと考える。回収率の72%を90%を超えるように、本校の教育活動に関心をもって評価していただくことが課題である。7割の方々の結果は真摯に受け止めつつ、さらに自己評価の結果を踏まえ、課題解決に向けて取り組んでいく。

独自項目である「挨拶」「言葉遣い」については、おおむね昨年度とほぼ変わらない結果だった。

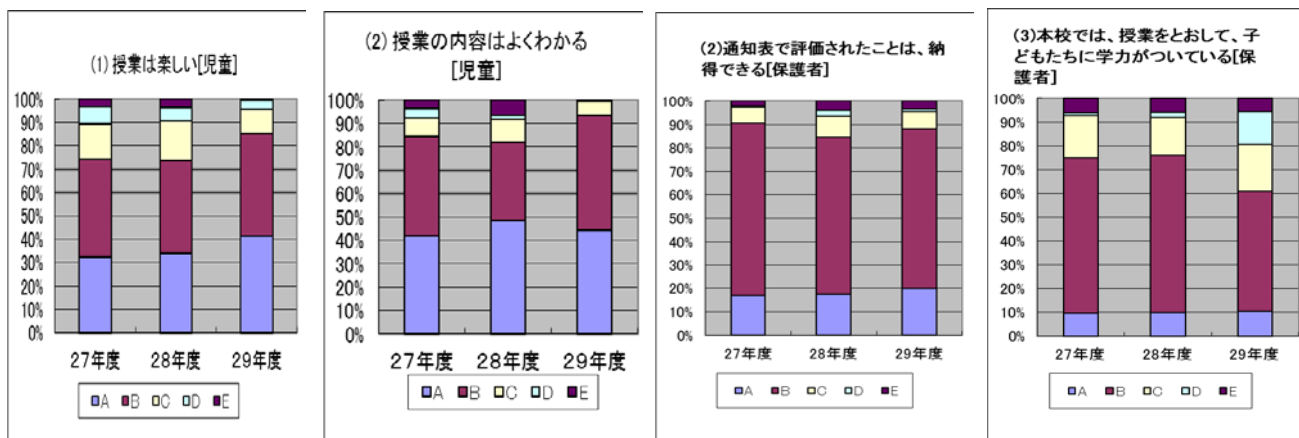
これを受けて、学校や家庭における挨拶や言葉遣いの指導の浸透と習慣付けを課題としている。また、保護者や地域の方への情報提供や連絡の周知など、肯定的な回答が増加しているが、学校に関心をもち、理解と信頼を得られるようにすることも課題である。

今年度も、同じ評価項目について児童・保護者・地域の結果と比較検討し、本校の課題について次のように報告する。以下の報告内容にある“肯定的な回答”を「とても思う・思う」とし、“否定的な回答”を「あまり思わない・思わない」とする。

## ①学習指導について

児童の「授業は楽しい」「授業の内容はよくわかる」の2項目では、肯定的な回答が10%以上増加している。また、「黒板の書き方やプリントなどを工夫している」「先生は時間を守って授業をしている」の項目においても、肯定的な回答が増加傾向にある。引き続き、校内研究や日々の授業研究を通して教材・教具の工夫を行い、さらに多くの児童が授業を楽しめるようにする。

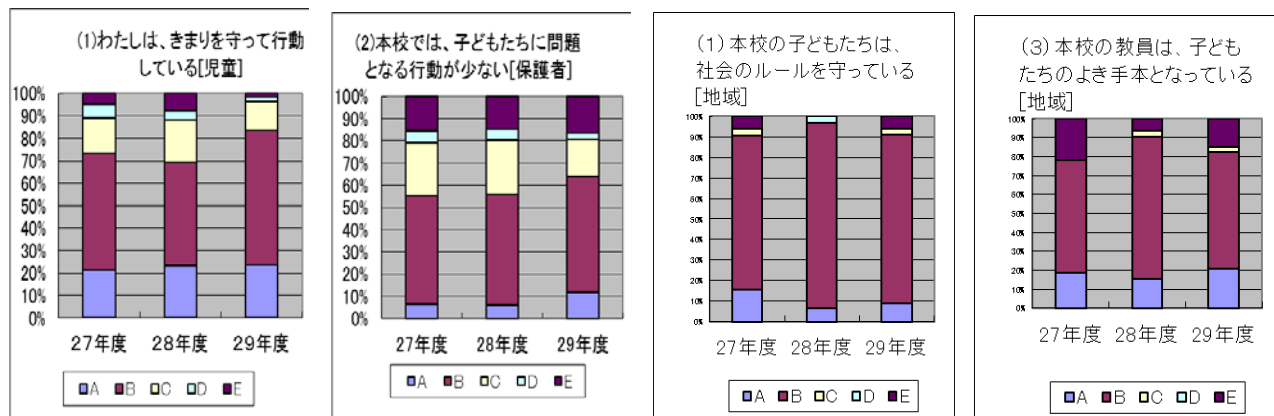
保護者の「通知表で評価されたことは、納得できる」「本校では、時間を守って授業が行われている」の項目では、肯定的な回答が増加傾向にある。しかし、「本校では、授業をとおして、子どもたちに学力がついている」「子どもは、漢字検定を通して、家庭での学習時間が増えた」の項目では、昨年度に比べ否定的な回答が増加した。児童の実態をしっかりと把握し、その実態に合った学習の仕方を工夫していく必要がある。教職員が課題をもって授業力を身に付けるよう日々研究や研修に励んでいく。



## ②生活指導について

児童の「先生に注意されたことは納得できる」「わたしは、きまりを守って行動している」や「だれかが学校のきまりを守らないとき、先生はきちんと注意している」の3項目において、肯定的な回答が昨年よりも増加している。教師と児童が意思疎通を図り、よい関係を保ち指導が行き届いていると考えられる。また、「喜多見小学校よい子の一日」や「学習スタンダード」等、学校全体で守るルールが児童や教師に浸透してきていると考えられる。保護者の「本校では、子どもたちに問題となる行動が少ない」の項目も、肯定的な回答が増加している。

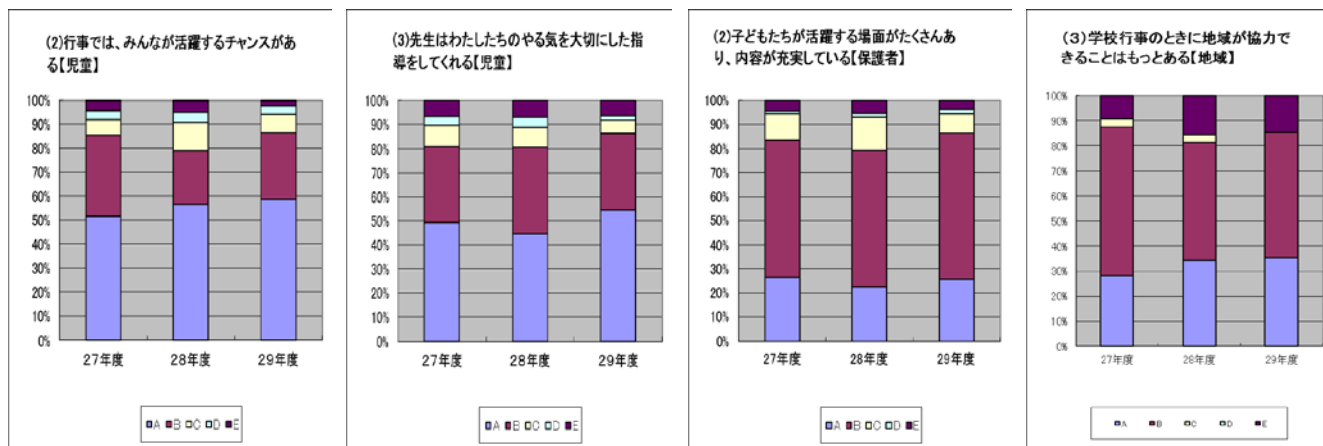
一方で、地域の「本校の子どもたちは、社会のルールを守っている」「本校の教員は、子どもたちのよき手本となっている」の項目では、肯定的な回答が減少している。児童の校外での過ごし方等の指導を継続していくとともに、教師が児童の手本となるよう率先して行動していく



### ③ 学校行事（運動会、学芸会、学習発表会、宿泊行事など）について

児童、保護者ともに「活躍するチャンスがある」「子どもたちが活躍する場面がある」の項目に対して、肯定的な回答が５％程度増加している。「やる気を大切にした指導をしてくれる」の項目も５％程度増加している。今年度は代表委員会が新たに設置され、委員会や学年、学級において子どもたち主体の活動が増加した。子どもたちの意見を吸い上げ、子どもたち主体の活動を今後も継続することで、行事を通して成長することを大切にしていける。

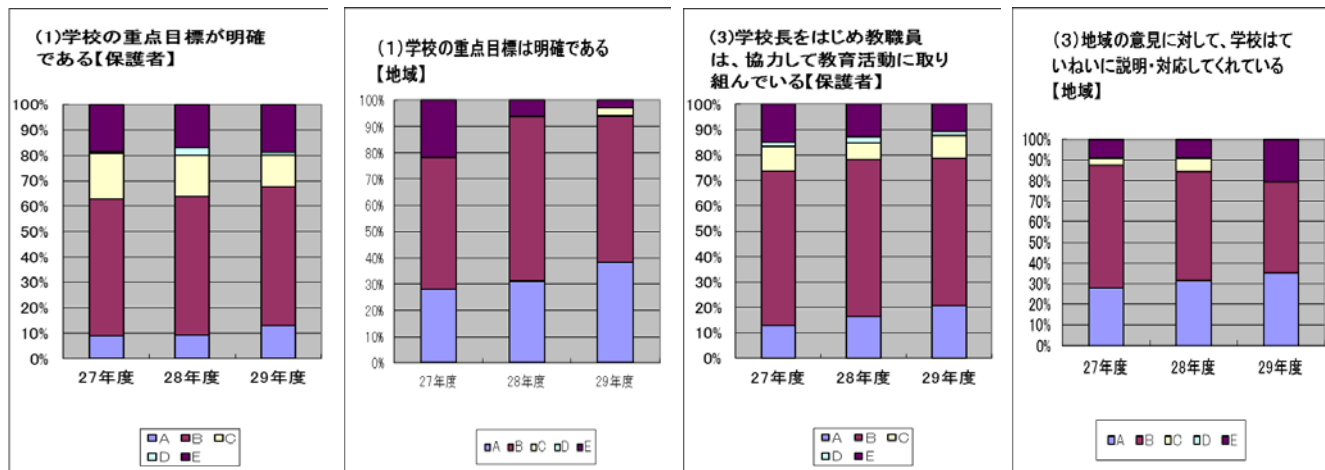
また、「学校行事のときに地域が協力できることはもっとある」の肯定的な回答が増加している。地域が協力的でとてもありがたい。今後も学校行事等での地域との連携を大切にしていける。



### ④ 学校運営について

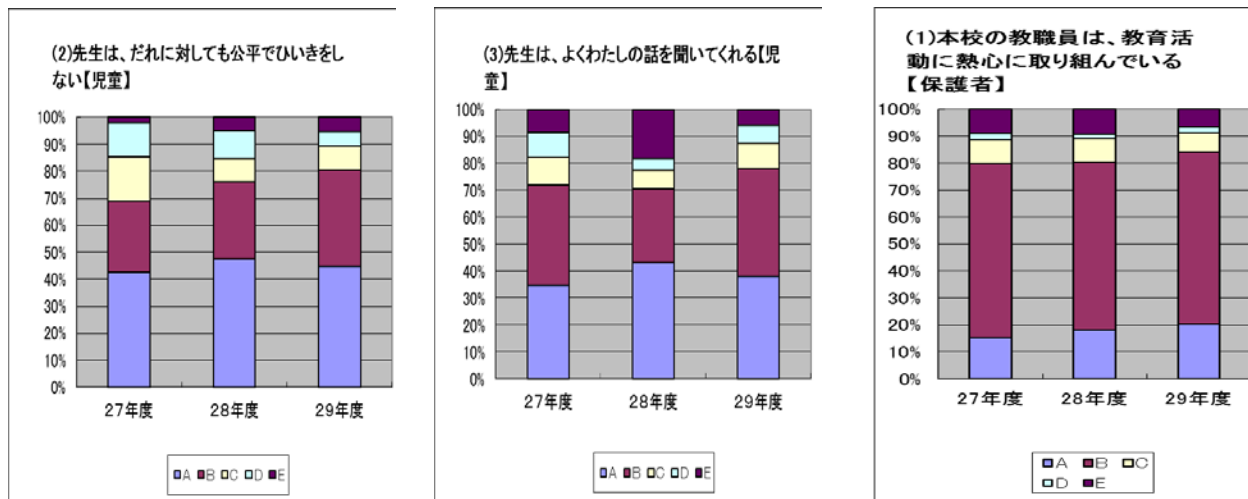
「学校の重点目標が明確である」の項目では、保護者、地域ともに肯定的意見が増加傾向である。重点目標について関心が高まっていることが分かる。学校・保護者・地域で連携し粘り強く働きかけていくことで、長期的に子どもたちの指導にあたりたい。

「教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」の項目では、８０％程度の保護者が肯定的であった。その一方、否定的回答は増加している。保護者や地域の意見に耳を傾けることを、より丁寧に行っていく。また、事前に対応できることは対応策をよく練り、組織的に対応していくことができるようにしていく。今後も、年度始めの学校便りや保護者会にて説明の機会を設け、情報を発信していく。特に、年度当初に行われる保護者会の出席を促して、多数の方に来ていただけるよう工夫していく。



## ⑤教職員について

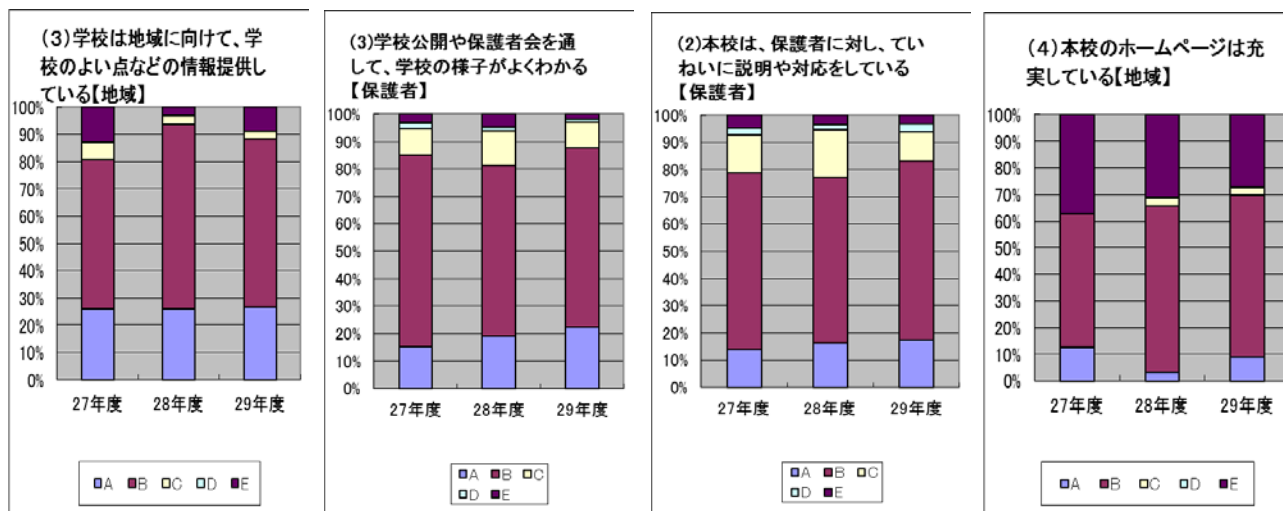
児童については、3つの評価項目すべてにおいて肯定的な回答が増加した。特に「だれに対しても公平でひいきをしない」「よくわたしの話を聞いてくれる」の項目に関しては、教職員が課題意識をもって取り組んだ結果、昨年度に比べ肯定的な回答が5%以上増加している。しかし、「よくわたしの話を聞いてくれる」の項目では、否定的な項目も若干増加しており、余裕をもって目の前の児童に関わる意識をもち必要があると考える。保護者については、「教育活動への熱心さ」の項目について若干ではあるが肯定的な回答が増加した。今後さらに児童・保護者からの信頼が得られるよう、親身になって児童の話を聞き、保護者への連絡や相談を密に行って連携を図っていく。



## ⑥広報活動・情報提供について

昨年度課題が広報活動・情報提供であるが、課題の改善に向けて取り組んだ結果、5つの項目全てで肯定的な回答が増加した。特に「学校公開などで学校の様子がよくわかる」の項目では、肯定的な回答が7%ほど増加した。

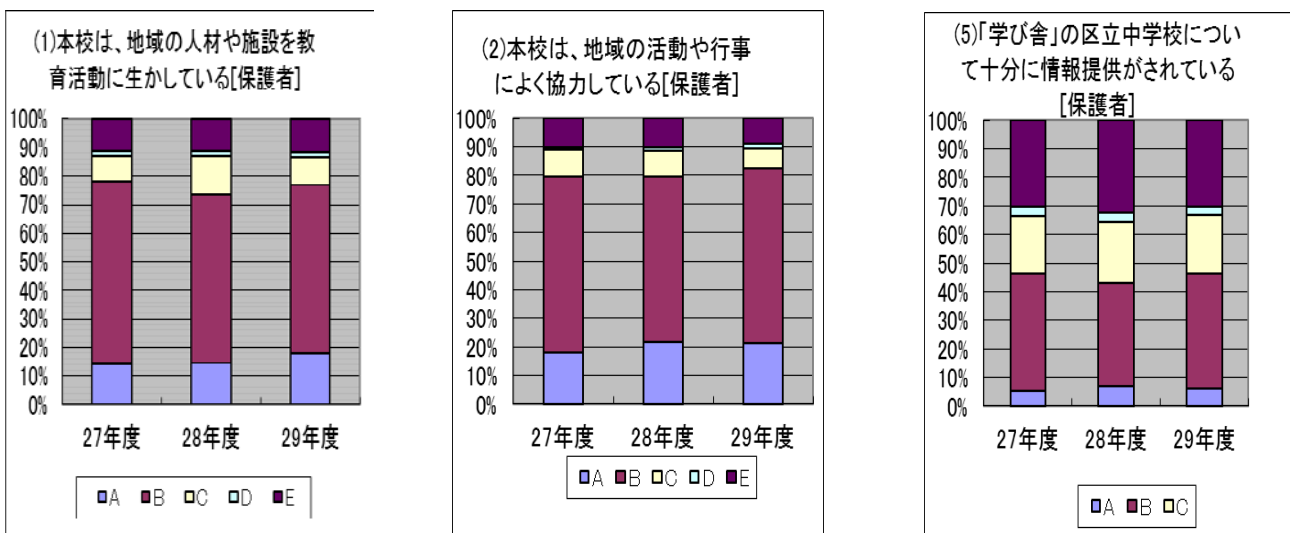
地域の回答でも、肯定的な回答は増加傾向が見られた。しかし、「地域に向けての、学校のよい点などの情報提供をしている」という項目では、80%の高い水準であるが若干の減少が見られた。今後地域に向けて、より情報を提供できるよう学校全体で取り組んでいく。また、さらに興味をもって見ていただくための手段を工夫してホームページを更新していく。



## ⑦地域との連携について

地域との連携に関しては、全項目が昨年度並み、または肯定的な回答が増えた。

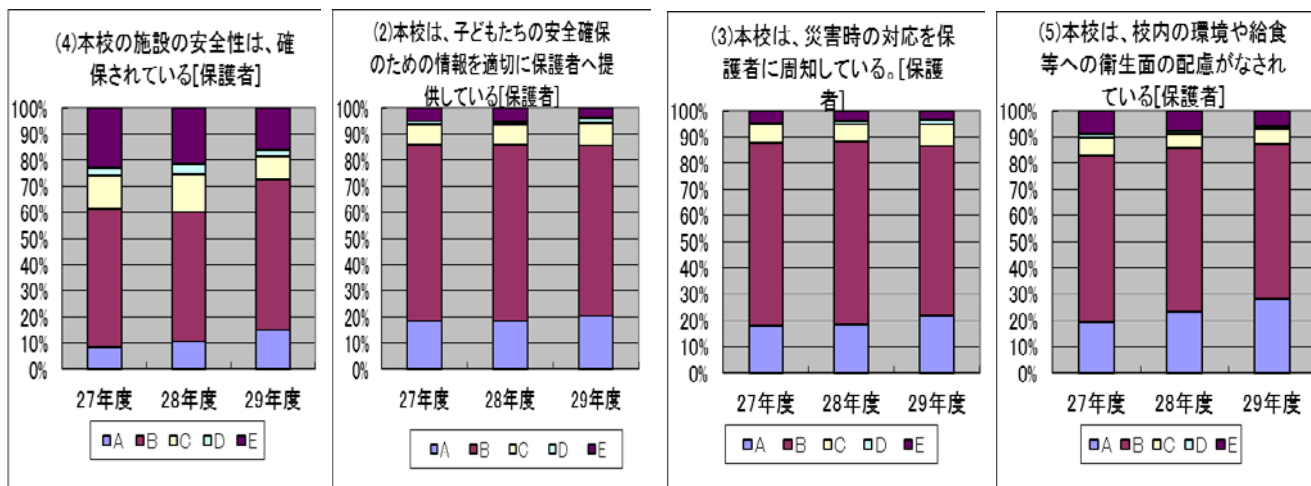
その中で、昨年度よりは良いが、『学び舎』の区内中学校について十分に情報提供がされている」の回答で否定的な回答が他項目と比べると多かった。保護者に未だ情報が十分に届いていないことが伺える。学び舎の交流がより活発になるように、小中合同での授業研究や挨拶運動、育てた野菜の交換等の活動を充実させていき、学び舎での活動をより積極的に周知していけるよう、今後も学校便りの配布やホームページでの紹介など、学び舎としてお互いの様子を伝えていく。



## ⑧学校の安全性について

施設の安全性は昨年度より肯定的な意見が10%近く増した。その一方(2)「子どもたちの安全確保のための情報を適切に保護者に提供している」と(3)「災害時の対応を保護者に周知している」の項目に関しては、否定的な意見が昨年度より増えた。学校便りやホームページなどでの周知に努めなければならない。

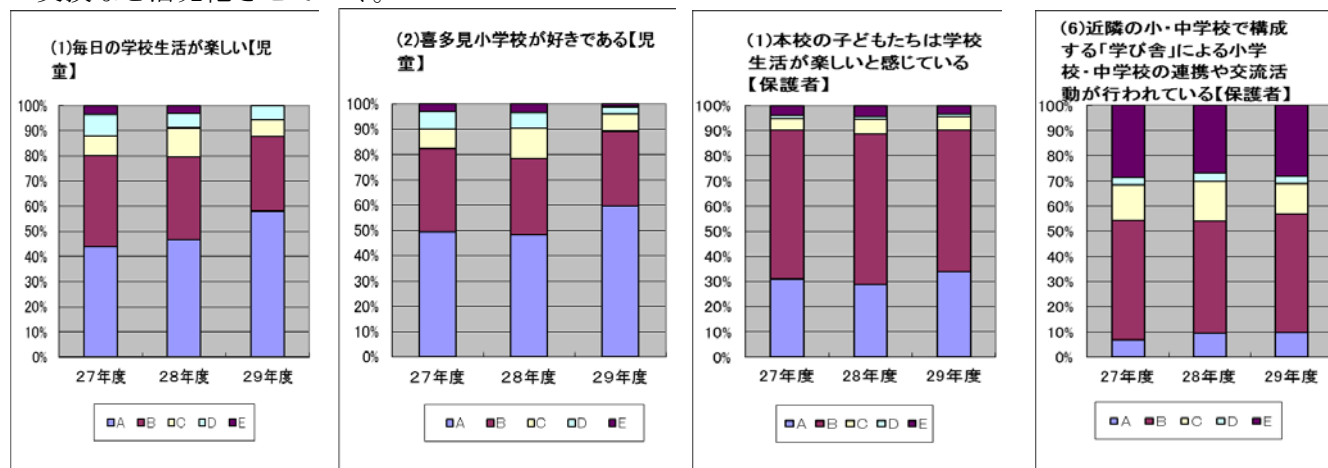
「校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている」についての肯定的な回答は、昨年度に引き続いて80%を超えている。給食試食会での調理の衛生管理についての説明、給食便りの内容の充実、校内美化等の取り組みが評価されたものと考えられる。今後も環境や衛生面の配慮を怠らず、継続して取り組んでいくようにする。



## ⑨学校生活全般について

児童について、「毎日の学校生活が楽しい」の項目では、肯定的な回答が増加し約85%となった。また、「喜多見小学校が好きである」の項目でも、肯定的な回答が増加し約90%となった。保護者でも、「子どもたちは学校生活が楽しいと感じている」の項目の肯定的な回答は約90%となっている。学級や学年での活動の充実や今年度より始まった「なかよしタイム」を通して異学年交流が活発に行われたことが要因に挙げられる。

「隣の小・中学校で構成する『学び舎』による小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。」については、少しずつ肯定的な回答が増加してきているが、今後も、あいさつ運動や育てた大根と小松菜の交換など活発化させていく。



## ⑩独自項目

保護者では、「子どもたちは、あいさつをよくする」について肯定的な回答が増加している。また、児童の「わたしは、よい言葉遣いをしている。(目上の人に対する言葉遣いなど)」の項目でも肯定的な回答は増加した。保護者・児童とも言葉遣いに対する実践力に課題意識をもっていたことが分かる。保護者と教職員と共通理解のもと、しつけ・指導に取り組んできたり、朝会や学級指導などで、児童に具体的な目標をもたせたりするなどの結果ではないかと考えられる。今後も学校や家庭における目上の人への挨拶や言葉遣いの指導の浸透と習慣づけを継続して行う必要がある。

「漢字検定を通して家庭での学習時間が増えた」の項目では、肯定的な回答が昨年度より下がっている。漢字等の基礎基本を習得することに課題意識をもち、児童や保護者が自発的に学習に取り組む意識が高まるよう、今後取り組みを工夫していくことが課題である。今年度より「私は、本を読むことが好きである。」(児童)という項目を新設した。約75%の児童が肯定的な回答をしている。今後は、図書の時間や朝の読み聞かせ、読書の時間を確保し、本に向き合う時間を設けていくことが課題である。

